

# 令和4年度 第4学年 授業改善推進プラン

	伸ばしたい力(児童の実態、学習状況、指導の実態より)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の確実な定着。</li> <li>・物語文や説明文を読み、内容を捉える。</li> <li>・自分の考えをしっかりとち、文章に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を活用し、漢字の学習を行う。50問テスト実施後は再テストを行い、正しく書けるようになるまで繰り返し指導する。</li> <li>・物語文、説明文を読み取る際の指導事項を系統立てて指導していく。読み取り方や構造を伝え、どの文章でも活用できる力を身に付けさせる。</li> <li>・自分の考えを書く時間を十分にとり、下書きの段階での個別指導を充実させ、自分の考えに自信をもたせる。また、意見交流する機会を多くもち、良い表現を皆に紹介する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題に対して、既習事項や生活体験を根拠に予想したり、見通しをもったりする。</li> <li>・単元の中で学習したことを実生活に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から出てきた興味・関心、疑問を生かし、問題解決的に学習を進めていく。</li> <li>・児童の身近な生活と学習内容を結びつけて考えていけるように授業を展開していく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な技能の確実な習得。</li> <li>・課題である「図形」や「データの活用」の定着。</li> <li>・自分の考えを明確にし、分かりやすく表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間を活用し、「東京ベーシック・ドリル」を用いて個に応じた技能の習熟を図る。</li> <li>・課題解決の際、わかっているもの、求めたいものがそれぞれ何かを確認する時間を設ける。</li> <li>・児童が互いの解決方法や考えにすすんで関わり「共有」ができるよう発問を工夫して話し合い場面の充実を図る。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心をもち、主体的に取り組む。</li> <li>・結果と考察を区別して考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な題材を取り扱い、より主体的に取り組めるようにする。また、普段の生活の中で意識できるように、身の回りの事象と関連づけて指導をすすめる。</li> <li>・結果と考察の違いを授業中に何度も説明して定着させる。また考察を考える道筋を示したり、ヒントを与えたりすることで体感させる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声に気を付けて歌う。</li> <li>・いろいろな楽器を演奏することや、みんなで合奏することを楽しむ。</li> <li>・感じたことを表現する(鑑賞)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱は歌詞に込められた思いを考えたり、曲の構成を考えたりして歌い方の工夫をしていく。</li> <li>・ICTの活用で、リコーダー、楽器の練習の仕方を工夫する。</li> <li>・鑑賞について、思ったことを表現しやすくするために、ICTの活用を考えていく。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの活動に対して共同で仕上げようとアイデアを出し合ったり、認め合ったりする。</li> <li>・道具の使い方など、注意事項をよく聞き、理解して安全に授業に臨む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作った作品で遊ぶなどの鑑賞の時間を設け、お互いの表し方の違いや考え方の違いに気付く機会を充実させる。</li> <li>・話す内容を簡潔にまとめてから児童に伝えるようにする。また、板書やICTを活用し、活動内容を目で見て確認できるようにする。話を聞く姿勢や態度が不十分な児童には個別にやり方を教えただけで活動の説明をする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに学習に取り組む。</li> <li>・勝敗だけでなく、チームとしての役割や、相手を讃えることを大切にする。</li> <li>・うまくいかなくても諦めずに最後まで取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ができるようになったことを実感し、技能の高まりを楽しむことができるようにする。</li> <li>・勝敗のみでなく、それまでの過程や、友達と協力して取り組むことの良さを実感できるゲームや規則を設定する。ゲームでは、児童の気付きをもとに規則を変更していけるように、はじめは簡単な規則にしておく。</li> <li>・できる・できないよりも運動の楽しさに気付けるように提示の仕方を工夫する。運動の過程を評価し、ICT機器を活用し動きの高まりを共有する。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしがらずに発音の練習をする。</li> <li>・英語を使って進んでコミュニケーションをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が率先して発音することで児童の心理的なハードルを下げる。また、何度も繰り返して発音をする場を設定して慣れさせる。</li> <li>・間違っても良いという雰囲気作りをする。その上で、必要な話型について指導し、相手の顔を見て話したり、聞いたりするコミュニケーションの仕方を指導する。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの課題について自分事としてとらえる。</li> <li>・自分の考えを伝え合い、深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の最後の振り返りを充実させる。自分のこれまでの経験と教科書の内容を照らし合わせて振り返る時間を十分にとり、ワークシートまたはパソコンで振り返る。</li> <li>・引き続き、書く、話す、交流する等様々な表現方法で児童の考えを引き出せるようにする。</li> </ul>